

神奈川県要注意外来種（通称神奈川県ブルーリスト）発表シンポジウム

こんな外来種に注意を！

—神奈川県の要注意外来種選定—

主催:NPO 法人神奈川県自然保護協会

後援:神奈川県・(公財) 日本自然保護協会・日本生態学会・

日本野鳥の会(申請中)・茅ヶ崎野外自然史博物館

県内にも多くの外来種が侵入し、生活や産業、生態系に大きな影響を与えています。

神奈川県自然保護協会は生物多様性ホットスポットの選定に引き続き、現在、専門家(生物多様性保全委員会)の協力を得て神奈川県で影響の強い外来種のリストを作成しています。今回は各生物分類群で注意すべき外来種や対応について話題を提供します。

日時: 2020年1月25日(土)

13:00 ~ 16:50 参加無料・申込不要

場所: 日本大学生物資源科学部

〒252-0880 藤沢市 亀井野 1866

1号館3階 131 講義室

プログラム

- 12:45 開場
- 13:00 理事長挨拶; 藤崎 英輔
- 13:05 趣旨説明; 青砥 航次(協会副理事長)
- 13:10 選定の経緯・外来植物群落について; 村上 雄秀(生物多様性保全委員会)
- 13:30 植物について; 勝山 輝男(生物多様性保全委員会)
- 13:55 昆虫について; 岸 一弘(生物多様性保全委員会)
- 14:20 鳥類について; 鈴木 茂也(生物多様性保全委員会)
- 14:45 == 休憩 ==
- 14:55 淡水魚類について; 勝呂 尚之(生物多様性保全委員会)
- 15:20 海洋生物について; 林 公義(生物多様性保全委員会)
- 15:45 両生爬虫類・哺乳類について; 天白 牧夫(生物多様性保全委員会)
- 16:10 神奈川県次期生物多様性戦略地域戦略について;
下條 恭永(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課)
- 16:30 総合討論
- 16:45 おわりに; 青砥 航次
- 16:50 終了

☆ 講演時間は進行の事情により前後することがあります。ご了承ください。



NPO 法人 神奈川県自然保護協会

〒243-0816 厚木市 林 5-15-10 青砥方 TEL & FAX 046-222-2356

E-Mail: nacs-kana-office01@eco-kana.org

神奈川県要注意外来種リスト作成の経緯と外来植物群落について

神奈川県自然保護協会生物多様性保全委員会 村上雄秀

神奈川県要注意外来種リストの作成

日本の生態系や人間生活への影響が強まりつつある外来種の問題は「生物多様性の危機」の一つと位置づけられています（2012-2020 版；生物多様性国家戦略 <https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives/index.html>）。しかし、外来種は外来生物法（2005 年施行）に指定された「特定外来生物」だけをとっていても 2005 年に 37 種の指定の後、2017 年時点ではその 4 倍の 148 種に達し、減少の兆しは見られません。

神奈川県下の外来植物も「神奈川県植物誌」（1988）で 620 種であったものが「神奈川県植物誌 2018」では 1,036 種で約 1.7 倍に達しています。外来種の抑制は時間と労力のかかる作業であり、市民の協力無しでは実現は困難と考えられます。神奈川県自然保護協会では市民と共にこの課題に取り組む基盤として「神奈川県要注意外来種リスト」（通称「神奈川県ブルーリスト」）の作成を計画しました。これは市民レベルでの生物多様性ホットスポット選定（2015；191 ヶ所）に引き続く「草の根生物多様性保全活動」の一環です。

リスト作成の経過

外来種についての全国レベルでのリストは「生態系被害防止外来種」（環境省）、「特定外来生物」（外来生物法）、「侵略的外来生物ワースト 100」（日本生態学会）などがあります。神奈川県という地域性を反映した要注意外来種リストの作成は、生物多様性ホットスポット選定と同じ以下の専門家の協力（生物多様性保全委員会）で進められました（順不同・敬称略）。

哺乳類	: 山口喜盛	鳥類	: 石井 隆・鈴木茂也
淡水魚類など	: 勝呂尚之	海洋生物	: 林 公義
両生爬虫類	: 天白牧夫	植物	: 勝山輝男
昆虫	: 岸 一弘	植物群落	: 村上雄秀

リスト作成のための委員会はこれまで 9 回（2018 年 8 月、9 月、11 月；2019 年 1 月、3 月、7 月、10 月、12 月；2020 年 1 月）が開催されました。リストアップの基準やランクは逐次改良され、最終版は以下のようです。

基準：

- ・人体の健康への危険性（有毒など）（重み大）
- ・産業への被害（重み大）
- ・生態系や在来生物への影響（在来種の駆逐、交雑など）（重み大）
- ・景観や生活環境（鳴き声など）への影響

ランク：

- A：早急に防除が必要であり、県レベルで防除が望まれる
- B：防除の必要はある。ホットスポットや保全地域での防除が望まれる
- S：神奈川県では未確認だが侵入すると危険性が大きい
- C：それ以外の一般外来種（防除不可能／不必要なもの）

要注意外来植物群落について

上述の全国レベルでの要注意外来種リストはその名のように「種」のリストであり、植物群落は指定されていません。しかしホットスポット選定でもそうであったように、植物群落は地上生態系の構造や生物多様性の基盤として他の生物にとっての「環境」を提供する存在でもあり、個々の種を扱う「植物」と異なった観点からリストアップを行いました。

外来植物群落の対象は、例えばハコネダケ草原のように単一種が密な集団を形成し（地下茎や根萌芽などによる場合が多い）、他の植物の侵入を阻害し、長期間持続的に土地を確保すると同時に近隣にその生育面積を広げる生態を持つ群落、としました。このような群落は周囲に比べ異様に生物多様性が貧弱な緑地を形成し、それが持続することにより地域の生物多様性の貧化を確実にもたらすと考えられます。代表的な群落を以下に示します。

<草本群落>



セイバンモロコシ群落(A)

河川敷や空き地に近年増加した地中海原産といわれるイネ科外来植物の群落。密な集団を形成しほとんど1種からなる草原となる。植物体に有毒物質を含むため飼料にも使われない



シナダレスズメガヤ群落(B)

林道などの道路法面の緑化などに導入され、種子により河川敷や空き地、海浜などの乾燥地に分布を広げた。生育地には日本の希少種が生育する場合が多く、競合が危惧される



トキワツユクサ(ノハカタカラクサ)群落(A)

上の2つと異なり林縁や林内に繁茂する常緑の外来多年草群落。外来植物の多くは明るい開放景観に多いがこの群落は林内にも繁茂し、森林構成種と競合する。江の島などでは自然林への侵入が進む